

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370102885
法人名	(株)ベネッセスタイルケア
事業所名	くらら門田屋敷
所在地	岡山県岡山市中区門田屋敷3-5-20
自己評価作成日	令和4年3月20日
評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ご入居者お一人お一人に沿った日常生活、健康面に注視しながらお気持ちを表すことができる環境に努めています。心身の変化に合わせてながら自発性ややりがい、役割を大切に自分らしい生活が送れる支援に努めています。

・お一人おひとりの「食」に焦点をあてた支援を深めています。

・ご本人の思い、ご家族の思い、支援する職員の思いを軸にした生活プランの作成を深めています。

・地域交流を目的とした活動が制限される中でも(資源回収・町内清掃・ハロウィン・餅つき等)を感染対策を行ないながら実施し、ご入居者、ホームが地域の一人としての役割を担えるよう努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JirgyosyoCd=3370102885-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 One More Smile
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7
訪問調査日	令和4年3月31日

1997年(平成9年)に(株)ベネッセスタイルケアの高齢者施設として、全国で初めて開設されたグループホームが「くらら門田屋敷」であり、開設25周年を迎える。ホーム名の「くらら」の由来はスウェーデンの認知症協会理事長の「スティナ・クララ・ヒュルストローム女史」に因み、クララ女史の理念をグループホームとして開設する為に、同ホームのニックネームを「くららの家」と命名したと管理者から聞いた。建物のコンセプトは「ホームにいなながら光と風を感じられる」であり、利用者は自然光や風を感じながら日々の生活を楽しんでいる。訪問日、満開だった庭の3本の桜の木は創設当初からこのホームをずっと見守ってくれている。管理者始め職員は生活の中にあふれている「小さな幸せ」を大切にしながら、理念である「その人らしさに深く寄り添う」を実践している。長い歴史を積み重ねてきたホームもコロナ禍にあって様々な試練を受けながらも、地域とのつながりを重要視し、地域の一人であり続け、地域に貢献できるホームを目指して邁進している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	お客様と従業員の「よく生きる」を実現する為に「ベネッセスタイルケア宣言」を従業員と年1回研修を実施。ベネッセスタイルケア従業員として「5つの行動宣言」「10の行動基準」にて自分が入りたいホームであるかまた、自分の親や大切な人を任せられるホームか日々考えた行動をしております。	「その人らしさに深く寄り添う」を理念とし、ここが第二の自宅と思ってもらえるように、生活の中にあふれている「小さな幸せ」を大切にしながら利用者、職員、地域が共に生きることを目指して実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の中地域の方との日常的な繋がりが、訪問して頂く事は出来ていないがお会いするとご挨拶をして下さる方、ホーム敷地内に設置したベンチでくつろいで下さる方や「ハロウインの飾りありがとう」「またお餅つきしたいね」などお声を掛けて下さる。	認知症カフェや町内活動に参加する等、地域交流・地域貢献にはとても力を入れてきたし、医療福祉専門学校が隣接しているので毎年実習生を受け入れてきた。また、町内会長とも話し合っってハロウインでは地域の子供達にお菓子を提供する等、いろいろな形で交流を続けている。	今年度の重点方針として、コロナ禍であっても地域の一員であり続ける。地域の一員であり地域に貢献できるホーム。を挙げているので、今出来る事を模索しながら地域の中で活動し続けて欲しい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月実施していた1回の認知症カフェ「おだんごカフェ」、認知症サポーター養成講座等の開催がコロナ禍の中実施出来ていない。掲示板の発信、資源ごみ回収の協力、実習生の積極的な受け入れ等、今出来ることをおこなっていききたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため実施出来ていない。ホームの取り組みや運営状況をお手紙の形でお渡ししお知らせさせて頂いている。メンバーの町内会長様、民生委員様、老人会会長様がホームの事を気にかけて下さる。	毎年、運営懇談会(運営推進会議)に併せて様々な企画をして地域の人達も参加型の会議を開催してきたが、この2年間程は参集しての会議は自粛している。書面で定期的にホームの活動内容や現状を市の担当者へ提出し、議事録を玄関で閲覧出来るようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	岡山市事業者指導課へは運営推進会議の代替としてホームの取り組みや運営状況をお知らせしたり、事故報告等で連絡を取っていますが、コロナ禍だからこそもっと密な連絡を取っていく必要があると感じる。	運営推進会議には必ず市の担当者の参加があったので、その都度聞いたり相談もしてきたが、コロナ禍の為、コロナ感染対策や書類に関すること等、今は電話で連絡を取り合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束・虐待防止委員会」を設置して毎月1回、セルフチェックを元に具体的な行為について振り返り、議事録を残すようにしています。時間を掛けじっくりと話し合うことが出来る場を意識しています。	身体拘束・虐待を疑う事実はないが、職員は何が拘束や虐待にあたるのか、また、「指示が入らない」「スイッチが入った」等是不適切な言葉としてよく認識しており、虐待早期発見のためのセルフチェック表を使い、ホーム全体で気をつけるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	6番同様に毎月1回、セルフチェックを元に具体的な行為について振り返り、時間を掛け話し合っています。小さな事でも話し合える環境を意識しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成見後見人制度について、ご家族様へ活用出来る様案内をさせていただき活用の際にはサポートさせて頂いています。また、権利擁護に関してはスタッフに虐待防止の基準説明と合わせて学ぶ機会を提供していますが、もう少し深めていきたいと思っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	読み合わせをおこない、お話を伺えるような環境と時間を作り、説明をさせて頂き、疑問点もお聞きするようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回、運営アンケート調査を実施しご意見を頂いた所は懇談会にて説明、次期運営計画としてあげていくようにしています。2019年～3年間運営懇談会は中止となっているため、毎月のお手紙や必要に応じてお電話させて頂いたりしております。コロナの中ご家族様が少しでも安心出来るよう家族支援含めた関わりを大切にしています。	担当者が書く写真満載のお手紙「くらはら便り」を家族に送り、状況報告をしている。畑で鎌を持ち耕す人、服のボタン付けをしている人、花を活けている写真等々、生活の様子が生き生きと詳しく掲載されている。また、家族の面会時には積極的に話し合う機会を設け、意見や要望は運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回定期面談を行なっている。また、日常の会話からも意見や提案を聞き反映している。ホームについてのアンケートを実施、アンケート結果についてスタッフ全員で振り返り、意見を聞きながら次年度へ向けた計画を図ります。	例えば人員不足の状況があっても、法人の他ホームからの応援もあり、自社のエリア内での多職種連携もある。また、SNSを運用して業務改善を図っている。職員の異動で入れ替わりはあるが、職員間にはよくコミュニケーションが取れており、良いチームワークだと思う。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は大阪を拠点としているが日頃より相談できる環境であり、毎月の確認会、また年2回の評価実施の中で、個々の働き方ややりがいに繋がられるよう努めている。また、育児休暇、介護休暇等の働きやすい環境や条件の整備を整えています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での認知症、介護技術、事故の再発防止、看取り、緊急時対応、常勤・非常勤の入社時(3カ月、8カ月含め)を実施しております。コロナ禍のため法人以外での研修を受ける機会がなかなか確保出来ない現状です。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣施設と勉強会や季節行事、防災訓練等を通して交流を図っていたが、現在実施が難しい。岡山エリア4ホーム(同法人)では、認知症カフェの運営、合同のど自慢大会、夜鳴きラーメンの会等々活動を共にする機会があったがコロナ禍で実施できていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前のアセスメントの際にはご家族様やご本人様よりご入居後安心して継続した生活が出来る様、背景やお好きな事、大切にしたいこと等お話を伺わせて頂いています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居に至った経緯を伺いご家族様の思い、ご要望を知る事が出来るよう努め「認知症になってもお一人お一人が安心して出来る事が続けられる暮らし」についてお話をさせて頂いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントから見えてくるニーズと現状からを重点サービスとしてあげる事で個々に沿ったサービス、必要な支援について見極め、必要に応じ変更、追加を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お一人お一人の生活の中の何気ないエピソードに重きを置き、ご本人の持つ力を大切に「共に生きる」「やりがい、自発性」を大切にできるようケアの統一を図っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	奥様や子供様、ご兄弟や後見人、様々なご家族の形がある中でお一人お一人の存在とお気持ちを大切にホームが皆様にとっての第2の自宅のような存在となるようお支えすることを意識しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人やご家族と情報共有し支援に繋げられるよう努めている。現在コロナ禍ではあるが、生活プランの中の会いたい人に会える目標設定をし実現したい事例がある。時世に合った関係継続の支援を行ってゆく必要がある。	コロナ下ではあるが、ワクチン2回接種済の家族は面会可能であり、相談室や居室で時間制限はあるが利用者との時間を持ってもらっている。また、散歩で出会う地域の人や利用者同士も馴染みの関係になっており、それぞれの関係性を大切に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係性を把握し、その時々との関係性を鑑みながら個別支援や集団を通しての関わりを大切にしている。それぞれが支え合って生活できるよう人の支援に努め人の輪の中に入り同じ空間で過ごせるようサポートさせて頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご見学者から「Aさんから教えてもらった」と言って頂けることもあり、季節のお手紙をお出ししたり交流をしているが相談や支援に繋がる事象はない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの暮らしや背景、こだわりや大切にしてきたことを知り理解を深めることを大切にし、日々の何気ない瞬間の中で自己決定、選択、自発性に重きを置くよう取り組んでいます。	長年新聞を愛読してきたAさんは「朝日新聞」が好きとの事で入所後も購読料を払って継続している。またBさんの気持ちを汲んで、四国にあるお墓参りに行き、姉妹とも会えるように、コロナが落ち着いたら実現出来るように家族とも話し合っているそうだ。その人らしい自己決定を支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前からのご様子や生活歴をご本人、ご家族様からいただく情報は宝物です。過去のお写真や日々の生活の中の何気ない会話の中からも知るよう努め、知り得た情報を職員間、ご家族様と共有しご本人へのケアに活かせるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のアセスメントから、認知症の進行や心身状態の変化がみられても、やりがいや役割がある生活を実現できるよう努め、役割ややりがいは現状に合わせて変化することを意識しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の思い、ご家族の思い、支援するスタッフの思いから【ニーズ】と【現状】を集め、生活プランを作成する取り組みを始めています。	今年度の重点方針として、ケアプラン・アセスメントシートの中身の充実やケアの質やサービスの向上を目指しているため、利用者一人ひとりのニーズや現状を丁寧に深く見ていき生活プランを作成するように努め、「プランを見ればどの利用者が見えてくる」を目標にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録が紙ベースからシステム入力へ移行し、気づきエピソードの記入が実際の実施に対し薄くなっているように感じる。職員間の会話からは気づきや様々な工夫が聞こえ共有することが出来ているがもっと記録に残せる工夫をしたい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	普段ご自分から言葉を発することが少ないご入居者が広告や会話から「これ美味しそう」や「〇〇が好きじゃ」等声を挙げて下さったタイミングを見逃さず支援に繋げるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の中、地域資源を把握し活用することがなかなか出来ていない状況ですが町内清掃や資源回収のコミュニティの中で力を発揮される方がおられるので、そういった機会を深めていきたいと思ひます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム協力医により月2回～4回の訪問診療を実施している。かかりつけ医と協力医と共に連携を図りながら適切な医療が受けられる様に支援をしています。	それぞれのかかりつけ医の往診やホームの協力医の訪問診療もある。他科受診は家族が付き添って受診する人もいるが、職員が同行するケースが多い。言語聴覚士による口腔ケアの訪問が週1回、自社のエリア看護師や理学療法士の定期的な訪問もあり、医療と介護の連携がよく出来ているので心強い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関・各主治医の看護職員へ連絡をしてご入居者様の変化や気づきを相談し適切な受診や看護が受けられるように支援している。また自社のエリアを統括する担当看護師との連携も深く、相談できる環境にあります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には主治医の紹介状と合わせて介護サマリを病院へ報告しています。入院中、退院時は他職種との合同カンファレンスで情報を共有する中で早期退院を実現することができ、結果ご本人の回復に繋がっていくことができました。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様と協力医療機関及び主治医と連携しホームで出来る事出来ない事を説明して理解を得ながら重度化や終末期の支援に努めています。またどのような過ごされたいか出来る限り深く話し合い支援できるよう努めています。ご本人が少しでも苦痛なく、またご家族の精神的負担を和らげることができるよう努めています。	開設25年の間には、数多くの人を見送ってきた。心に残るエピソードも数えきれないくらいある。1年に1名くらいずつは看取りをしてきたが、この1年はターミナルの人もない。「ここで最期まで」と希望する本人・家族が多いのも、職員の手厚い介護に信頼があるからだろう。今後も出来る限りの支援をしていこうと思っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1度の緊急時対応研修や入社時、その他ご入居者のご状態に合わせて実施。専門職を招いての勉強会をおこなうこともあります。また事故の再発防止の勉強会やコロナ禍において感染症対応にも力を入れています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回。夏季、冬季、(内1回は夜間想定)で防災訓練を実施しています。災害時の対応については、定期的な備蓄品確認、整理をおこなっています。	業者と一緒に水消火器を使って実践したり、通報装置の説明を受けた。また、近くの高校の生徒や町内の人と一緒に庭に置いてある土嚢の土を入れ替えたり、利用者と一緒に避難訓練を実施している。倉庫として使用している部屋には所狭しと災害時備蓄品が置いてあり、食品の賞味期限のチェックもしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎年1回年次研修として「プライバシー保護」「情報セキュリティ研修」を受け、意識した取り組みを行っています。また、毎月の虐待防止委員会においてもプライバシーについて話し合っています。	居室にトイレが設置されているので排泄の失敗時や更衣の時にプライバシーがしっかり保たれているし、声かけにも気をつけながら羞恥心への配慮や尊厳を損なわないように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の何気ない会話から見られる表情や行動を洞察しながらご本人様が選択できるよう、一人ひとりに添った意思を表現しやすい声かけに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様の思い、ご家族様の思いを柱にその時の状況を考慮しながらご本人様の心身の状態に合わせて支援できるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の意向を伺いながら保清と気候に合わせた服装の提案をしていき支援をさせて頂いています。また季節行事や日々の身だしなみから、喜びや活気が生まれるような場面を大切にしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「食の日」として、作って食べるだけではなく、食材に触れたり、季節の野菜や果物を感じて頂きながらご入居者と職員と一緒に準備、調理を行っています。	日頃は法人系列会社からパレット食が届くが、1か月に2回「食の日」として利用者と一緒に食事やおやつの手作りにチャレンジしている。最期まで自分の好きな物を食べてもらいたいと語る職員の話からも、食べる事を大事にしているホームの姿勢がよく分かる。	認知症ケア研究事例発表会にエントリーして「九人九食の色」のタイトルで発表する程、豊かな気持ちをもたらす「食」を大切にしている。いつか訪れる最期の「食」のあり方や取り組みにも是非つけていって欲しい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は記録し、嗜好によりお食事が摂れない場合は補食を用意したりしています。水分補給は不足しないように注意しています。水分量の把握の必要な方は記録に記入しています。個々に沿ったバランスを意識しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがいの声かけと共に歯みがきを含めた口腔ケアのお手伝いをさせて頂いたり、必要に応じて義歯管理もさせて頂いています。また、訪問歯科を利用しながら、衛生士からの口腔ケア指導助言を受けながらケアにあたっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人様の表情や行動を読み取りお声掛けを行うと共に定時誘導にてトイレに座る習慣をつけて排泄を促がす支援を行っています。移乗が難しくなってこられた方も必ず1日1～2回はトイレに座ることを支援しています。	各居室にトイレが設置されているので、一人ひとりの排泄リズムを把握して適宜声かけし自室に誘導している。男性も女性も少なくとも1日1回は便座に座るようにして、重度化した人も二人介助で出来る限り座位での排泄を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご本人様の排便状況を把握し水分補給やお食事量、服薬等を見ながら運動を促がすと共に飲み物や食品に配慮しています。生の果物や手作りヨーグルト・粕汁やきな粉等工夫しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴のスケジュールはあるがご本人様の意向をお聞きしてから意に添うように案内をさせて頂いています。(入浴前の健康チェック(発熱や血圧)で入浴出来ない事もあります)また、ご家族様のご意向も取り入れて支援させて頂いています。	入浴は週2～3回、元気な人は湯船に浸かって入浴出来るが、構造上浴室にリフト等が取り付けられないので、浴槽に跨いで入れない人は、シャワー浴に足浴で対応している。柚子湯や菖蒲湯等の季節ごとの行事も大切にしておりとても喜ばれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご入居前の生活パターンとホームでの生活のリズムを合わせながら支援しています。その時の体調や心身の状態や快適な寝具、環境で安心して安らげる空間を大切にできるよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の病状や処方内容を理解し、症状の変化等ないか日々確認に努めています。薬剤師との連携や協力体制が出来ている。ご入居者のささいなご状況を医師に相談しやすい環境です。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	環境の中に様々な物をちりばめ、自発性の瞬間がうまれるよう努めています。ご本人がやりたい事、興味を持たれた事を軸に支援に努めています。感謝の言葉をお伝えし共感することを大切にしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	例年実施していた外出や外食が行えない状況で実施出来ない。 ホーム敷地内の庭や畑での活動を増やしながらか模索しています。	ホームの庭には3本の桜の木があり、訪問時には満開だった。例年はこの木の下で食事会を楽しんでいる。近所の人も利用する門のすぐ傍に置いてあるベンチに座り日光浴や外気浴をしながらお喋りをする事もある。また、受診には必ず娘が付き添い、ドライブや外食を楽しみにしてる人もいて、それぞれの個別外出支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出の機会が持てない状況の中、お財布を持ちそこからお金を用いて好きな物を購入するといった機会が持てていない。ホーム内で何かできないか模索しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて電話をかけたりご友人と便りが出来る様支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居者様の安全性を考慮して季節を感じていただける様、また居心地よく過せるように配慮しています。自然な光を意識しています。	リビングにはいつでも休憩出来るようにベッドが2台置いてあり、希望者が多く人気があると聞く。掃き出し窓から見える庭には畑や花壇があり、色とりどりのチューリップや季節の花々が咲き誇っていた。畑では夏はスイカも作っているとの事。アクティビティも豊富で自分の得意な分野で力を発揮する人もいるらしい。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人の安心できる環境、居場所の視点から決まった席、場所がある場合や、臨機応変に移動するなどその時々状態や状況に沿いながら空間作りをおこなっている。窓際のソファやリビングにベッドを置きくつろげる空間を大切にしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様と相談し安全に配慮しながら馴染みの家具や生活用品を持ち込むことが出来るよう支援に努めています。また状況に合わせてシンプルな環境にさせていただいている方もおられます。	畳に障子、フローリングにカーテンの部屋があり、CDラジカセ、ダンス、机と椅子、本箱等、使い慣れた家具を持ち込み、家庭の延長線のようなその人らしい寛げる居室になっている。また、転倒防止の為に室内やトイレに手すりを設置したり、カーペットを敷く等、安全対策にも気を配っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室では不安等を招かないように物の位置に配慮しています。ホーム全体が「家」という認識で居室番号やお名前は設置していませんがご自分の部屋が分かる方が多くおられます。		